

ドクターズアテンション

「新型コロナに対峙する医療スタッフに向けての応援メッセージ」

自民党参議院議員
松川るい



コロナ対策のため、現在、世界中の各国が鎖国状態だ。まるでグローバルリズムへの逆襲のように世界は分断され、世界経済も日本経済もリーマンショック以上の打撃は必至。世界におけるコロナ死者は20万人を超えた。

水際対策の甘さや外出自粛の不徹底など、緩過ぎるところもありながら、それでも、現在、日本の死者数は約350名。欧米で何万人もの死者が出ていることは2桁違いで少ない。結果論でいえば、日本は、これまでのところ諸外国に比べてコロナとの戦いでは成功しているといえる。

日本が感染爆発を起こさずに持ちこたえているのは、医療関係者の献身的なご努力に合わせ、アクセスの良い国民皆保険制度、そして子供でもうがいや手洗いが習慣化している国民の高い衛生意識に負うところ大と考える。

この場をお借りして、医療そして自治体関係者をはじめ、コロナウイルスと最前線で戦っておられる皆さまに心からの敬意と感謝を捧げる。

3月の予算委員会でも『死亡数の抑制こそが重要であり、日本の死亡者抑制成功の背景には充実した地域医療網がある。医療費抑制の観点からだけでなく、感染症対策も含めた評価制度に見直すべき。』と訴えたところ、後日、コロナ対策に取り組む医療従事者の診療報酬を倍増させるとの政府の決定がなされた。マスク、防護服についても政府は優先的に医療機関に直接届けることとしている。それでも、まだ現場に充分

届いていない、遅いという声も聞く。最前線で戦う医療従事者の皆さまが安心して仕事ができるようにスピード感をもつて取り組んでいく。

しかし、コロナウイルスとの戦いのフェーズは変わった。欧州発の第2波ともいえる感染経路不明が大半となった以上、PCRはじめ様々な検査を拡大し、感染状況を把握して、速やかな治療につなげる体制が必要だ。まずは感染が収束に向かわねば経済再開など夢。したがって、今はたとえ経済的に苦しくとも、一刻も早く感染拡大を収束に向かわせることが最重要の経済対策だ。

それが可能となるよう、政府も一律10万円給付はじめ様々な支援策を打ち出しているが、必要な支援が速やかに届くように取り組んでいきたい。

コロナ後の世界は、間違いなくデジタル経済の世界となる。マイナンバーカードをはじめ、デジタル化の恩恵を十分に享受するための基礎インフラ整備を劇的に進めることが肝要だ。

明けな夜がないように収束しない感染症も存在しない。コロナウイルスに負けることなく、必ず一緒に乗り越えようではないか。

自民党参議院議員
自見はなこ



本年1月に国内最初の新型コロナウイルス感染症の症例が確認されて以来、わが国ではWHOや諸外国との連携強化、水際対策、検査体制や医療提供体制の整備などの感染拡大防止策を進めてきましたが、4月7日に安倍総理大臣が緊急事

態宣言を発令し、新型コロナウイルスとの戦いが新たな局面を向かえています。

都市部の医療現場では、緊急事態宣言が発令される以前から新型コロナウイルス感染症対策に膨大な労力を払いつつその他の疾患への医療行為も継続しなければならず、さらに感染者数増加に伴い病床の不足や、医療従事者が感染して医療提供ができなくなる事態も生じており、4月1日には日本医師会が「医療危機的状況宣言」を出すなど、医療関係者にかかる過大な負担が問題となっています。

私は、本年2月10日から3月1日まで、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の船内で現場対応に当たりました。刻々と状況が変化する厳しい現場ではありましたが、多くの医療関係者の皆様のお力を借りて、オペレーションを完了することができました。JMATやAMATの先生方には、2月14日〜20日の間、約3700名の乗員・乗客に対し、下船に向けての要件となった医師による健康チェックの問診を行っていただきました。PCR検査の検体採取は自衛隊の医官が対応していただきました。DMATには当初より乗船し、新型コロナウイルス陽性者や、感染の有無に関わらず急病などで下船する乗客・乗員の対応を、日赤チームには、船内の発熱以外の疾患対応を、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本医薬品卸売業連合会には、乗客の常備薬対応を行っていただきました。加えて感染症の専門家には、武漢からチャーター便が帰国して以降、助言やラウンドなど船内船外において支援をいただきました。

いま、「ダイヤモンド・プリンセス号」で学んだ教訓を国内対策に活かしていく時期が来ています。現場で働く医療関係者の皆様の献身的な活躍に心より敬意を表するとともに、その安全と負担軽減のため、全力で取り組む所存です。

新型コロナウイルス感染症に専門的に対応する拠点病院を確保し、人員や機器など限りある資源を集約すると共に、

通常の疾患の患者と接触することを回避し、院内感染のリスクを極小化することが求められます。

また、「帰国者・接触者相談センター」業務に加え、PCR検査の検体採取や発送手続、患者の受入れ先病院の調整、搬送およびそれに伴う事務手続など、過大な負担がかかっている保健所への支援も必要です。現在、都道府県医師会、郡市区医師会等の先生方のご協力のもと、地域の医師会等が帰国者・接触者外来やセンター外来（PCR検査センター）の業務を行政から受託して行う取り組みが各地で進められています。マスク、消毒液、PPEなどの確保も、二層のスピード感を持って進めております。

その他にも多くの課題が山積しておりますが、現場の皆様が寄り添い、共にこの危機を乗り越えるため、医師として、国会議員として、全力で皆様を応援して参ります。一緒に頑張りましょう。

公明党参議院議員
熊野正士



新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた皆様に心よりご冥福をお祈り致します。今、まさに病氣と闘っておられるすべての皆様の一日も早い回復をご祈念致します。そして、感染症指定病院あるいは新たに新型コロナ感染症を受け入れることになった病院などで、多くの医療スタッフの方がご奮闘されていることに改めて敬意と感謝を申し上げます。本日にあらがとうございます。

者を受け入れている病院に対する診療報酬加算の増額など財政的支援の必要性を訴えました。新型コロナウイルス感染症を受け入れ病院では外来対応、PCR検査のための検体採取、入院受入れ、さらに重症患者の人工呼吸器管理など、本日に多くの業務が重なっています。またコロナ感染症受入れに伴う病院経営のダメージが非常に大きくなっております。こうした状況を鑑み、4月17日には厚労省から診療報酬倍増との発表がされました。決してこれで充分とは言えませんが、診療報酬加算により少しでもスタッフの皆様の処遇改善に繋がればと思っております。まだまだ課題は山積しております。マスクや防護服の不足も深刻です。医療従事者の方にとっては、防護具がなければ戦えません。いつ感染するかもしれないという状況の中で、防護具の不足があつては絶対になりません。今、政府をあげて供給体制を整備していますが、さらに力強く後押しして参ります。また、いつ感染するかもしれないという恐怖と向き合いながら、多くの医療従事者の方が、家族への感染を防ぐため、近くのホテルなどに宿泊しているとも伺っております。こうした命がけで戦っております。こうした命がけで戦っております。皆様にも少くも報いることができると考えています。ましてや医療スタッフおよびその家族に対する偏見や差別などがあつては絶対になりません。

いまだ終息の見通しは立たないわけですが、医療現場の負担を軽減する最大のポイントは感染者を増やさないということだと思います。国民の皆様は行動自粛にご協力を頂戴しながら、そして医療スタッフの皆様のご尽力に深く思いを致しながら、私もできうる限りの力を尽くして参る決意です。